

令和4年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1.1 愛媛県小中学校長会の中学校部会長校を校長と教務主事が訪問し、直接、訪問先校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。</p> <p>①-1.2 令和2年度のオンライン学校説明会で開設した関連ページを改良して、小中学生向けのイベント開催情報をウェブサイトに掲載する。ページレイアウトなどを改善し、より分かりやすい内容となるよう検討する。</p> <p>①-1.3 昨年度YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>①-1.4 毎月1回、メールマガジンを発信する。また、イベント等機会あるごとにメールマガジン配信登録の案内を行う。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願者状況を作成し、地域における志願者の推移の分析を行い、今後の広報活動に活かす。</p> <p>①-2 広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るよう以下の広報活動を効果的に行う。</p> <p>①-2.1 中学校訪問は、進路指導主事、3年生学年主任等を対象に、本校の概要、特色、入試、進路状況、学寮、必要経費等の説明を行うとともに、志願者等の情報収集を行う。また、中学校主催の進路説明会には必ず教員を派遣し、説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行う。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会では、中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行い理解を深めてもらうとともに、各校における進路指導の状況等について情報交換を行う。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントとしてはウイズコロナを意識した上で、夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。</p> <p>①-2.4 松山地区の入学志願者増を目的とした、入試広報コーディネータによる広報活動を検討する。</p> <p>①-2.5 新居浜市及び他機関と連携して設立した「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として教員を派遣し、各種イベントへの学生参加を通して新居浜高専の魅力を発信する。</p> <p>②-1.1 中学生向け広報誌「はばたけ! 未来へ」を大きく改訂し、一部、漫画なども加え、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、広く女子中学生も含めた広報を行う。</p> <p>②-1.2 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムを開催し、情報の共有・普及を行う。</p> <p>②-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>②-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>②-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。</p> <p>③.1 アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。</p> <p>③.2 これまでの入学者選抜方法(推薦・学力)による学生の入学後の成績などを調査して選抜方法の検討・改善の資料とするとともに、入学選抜改革に関する実施方針に柔軟に対応できるように選抜実施体制を整える。</p>	<p>1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置</p> <p>1.1 教育に関する事項</p> <p>(1)入学者の確保</p> <p>①-1.1 6月に本校の校長・教務主事が愛媛県小中学校長会の理事校を訪問し、校長と進路指導主事に本校の概要を説明した。</p> <p>①-1.2 令和3年度に作成した入試情報関連のページを改良し、小中学生および保護者などに、より分かりやすい内容に改善した。</p> <p>①-1.3 昨年に引き続き情報発信力の強化のためにYou Tubeによる動画配信の公式チャンネルをホームページ上で一般公開し、適時、動画ファイルを追加・更新した。</p> <p>①-1.4 メールマガジンについては、入試情報やイベント情報などの案内を毎月1回発信している。</p> <p>①-1.5 入学年度別志願状況においては、広報推進室会議資料作成の参考としたほか、効果的な広報活動(進路説明会の際の手持ち資料)に活用した。</p> <p>①-2 新型コロナウイルスの感染対策を徹底し、規模を縮小したものの3年ぶりに予定していた対面式の入試広報イベントをすべて実施した。</p> <p>①-2.1 感染対策を徹底し、愛媛県全域及び香川県西部地区への中学校訪問を行った。また、中学校主催の進路説明会にも例年通り参加し、中学校訪問を兼ねて説明用のパワーポイント資料及び中学生向けのリーフレットに沿った説明を行い、募集要項の配付を行った。</p> <p>①-2.2 地区別学校説明会は今治地区、東予地区、徳島県三好地区にて校長と教務主事が中学校の校長及び進路指導担当教員を招き、説明会ならではの詳細な資料を用いて説明を行った。また、各校における進路指導の状況等について情報交換を行った。</p> <p>①-2.3 入試広報イベントは、参加者を中学3年生とその保護者に限定し感染対策を徹底した上で、夏季体験学習、ものづくりフェスタin松山、学校見学会(オープンキャンパス)および学園祭における入試問題解説コーナー等を実施した。</p> <p>①-2.4 入試広報コーディネータによる広報活動を行った。</p> <p>①-2.5 「東予ものづくり祭実行委員会」の委員として広報推進室長とイベント担当の教員が参画している。同フェスは11月12日～20日の日程で開催され、パネル展示による広報活動を行った。</p> <p>②-1.1 広報誌「はばたけ!未来へ」では、冒頭ページに漫画による紹介ページを新設した。これに伴い、内容を精査して構成も大幅に変更するなど、中学生の興味を引き、親しみを持って閲覧してもらえるよう工夫した。広報誌は全中学3年生分を中学校訪問の際に持参し、内容を説明するなど広報活動に活用した。また、来年度に向けて内容を大きく改変すべく活動中である。</p> <p>②-1.2 第4ブロック高専女子フォーラムについては、今年度は開催されないこととなった。第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加予定である。</p> <p>②-2.1 新居浜市国際交流協会から案内されたイベントに長期留学生在が参加し、地域と一体となった交流をしている。</p> <p>②-2.2 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。</p> <p>②-2.3 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。</p> <p>②-2.4 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。</p> <p>③.1 8月31日(水)に編入学者選抜(9月25日(日)に追試験)、1月21日(土)に本科入学者推薦選抜(2月4日(土)に追試験)、2月12日(日)に同学力選抜(2月26日(日)追試験)を、それぞれアドミッションポリシーに対応した選抜方法で実施した。</p> <p>③.2 本科推薦選抜の方法について調査・検討し、適性検査の導入について審議したが、導入を見送ることとした。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 産業構造の急速な変化や技術革新、地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するため、本科・専攻科に設置した新しい教育プログラムの充実や学科等の改組について、引き続き検討する。</p> <p>①-1.2 運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>①-1.3 企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p> <p>①-1.4 今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。</p>	<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①-1.1 次世代型プラント技術者育成(PE)、アシスティブテクノロジー技術者養成(AT)、実践型AI活用技術者養成(AI)の各特別課程を継続的に開講している。今年度の受講者はPE 20名、AT 10名、AI 7名である。また、機械工学科では社会のニーズに合わせてロボティクス系を強化するため、来年度からカリキュラム変更することとした。</p> <p>①-1.2 3月2日に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動、地域連携活動等について意見交換を実施した。ここで得られた意見を今後の学校運営に活用することとしている。</p> <p>①-1.3 3月1日以降にオンデマンドで開催する企業説明会に参加する企業を対象に、高専卒業生の評価に関するアンケート調査を実施した。今後の教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用することとしている。</p> <p>①-1.4 第4ブロック内の化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業で開発した教材を用いて反転授業などに取り組んでいる。11月25日開催の四国地区教務主事会議において情報交換し、今後の高専のあり方について検討した。</p>
<p>①-2 主に新居浜高専技術振興協会「愛テクフォーラム」関連企業と連携したインターンシップ、専攻科学生に対する教育の充実を図る。また、地域ニーズ、社会ニーズに応えられる人材を育成するために、地域産業界、大学との共同研究において、各専攻科コースの特色を生かした共同研究の充実を図る。</p>	<p>・コロナ禍において参加27名中7名の学生が、愛テクフォーラム関連企業においてインターンシップを行えた。</p> <p>・特別研究において、複数機関との連携も含めて、企業との共同研究は12件、その内、県内企業との共同研究7件(内、愛テク関連企業1件)、大学との共同研究は8件であった。</p>
<p>②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に行う。</p> <p>②-1.2 タイ高専での教育活動を経験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p> <p>②-1.3 オンラインで海外の学生と交流する試みを行う。</p>	<p>②-1.1 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。トビタテ留学の支援、台湾聯合大学インターンシップの募集を行う予定。</p> <p>②-1.2 タイ高専で教育活動を経験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。</p> <p>②-1.3 中国語会話の授業の中で、台湾の協定校と連携してオンラインでの交流を取り入れた。</p>
<p>②-2.1 今年度本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成を推進する。</p> <p>②-2.2 今年度からカリキュラム化した「英会話演習」と「海外語学研修」を活発に運用し、学生の英語コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>②-2.3 留学経験者や外国人留学生・教師と関わる機会を授業内・課外で積極的に設ける。</p>	<p>②-2.1 リベラルアーツ演習を開講し、外国のSDGs達成状況などを調べ、海外への関心を惹起できた。</p> <p>②-2.2 「英会話演習」を周知し希望者が参加した。「海外語学研修」については、これまで海外研修を企画できなかったが、3月に研修を企画し、達成したい。</p> <p>②-2.3 留学経験者の情報はHPで周知している。長期留学生との交流は研修旅行や文化祭等で予定している。今年度から雇用した外国人常勤教員は授業内外で活躍。台湾とのオンライン交流を実施。</p>
<p>③-1 連合会主催の、ロボコン、プロコン、デザコンに対して、これまでどおりの学内環境、活動支援を行う。今年度は特にロボットコンテストの地区大会開催に尽力する。また、高専PRIに繋がるコンテスト参加活動等においても、チャレンジプロジェクトをはじめとする後援会への支援依頼や寄付金等の外部資金獲得に努め、活動支援体制を整える。高専大会(地区大会、全国大会)等の体育局的活動において、外部指導員の雇用など、顧問教員の負担軽減に配慮すると同時に、学生が健全な活動を行える環境整備と運用体制を構築する。今年度は特に全国高専体育大会の開催に取り組む。</p>	<p>③-1 全国高専体育大会・ロボコンについて大会を無事に開催できた。夏季休暇中は合宿所を一定期間開いて支援を行った。後援会の寄付を得て、上記大会を円滑に行い、チャレンジプロジェクトも例年どおり実施した。高度化推進経費等を活用して安全管理のための外部指導員の雇用、教員の負担軽減を行い、健全な課外活動の運営を行うことができています。</p>
<p>③-2.1 従来どおり、ローターアクトクラブや奇術部のボランティア活動を支援し、善行活動事例を県や市に報告するとともに学生表彰等にて業績の周知・評価を行う。</p> <p>③-2.2 新居浜市消防本部、新居浜市消防団と連携し、平成30年度から学生消防団募集事業を行っている。学生消防団員には、消防団活動、防災・減災・救命措置に対する出前講座、啓発イベント等での活躍が期待されており、学生消防団への加入を奨励する。また、活動実績に対して、地域貢献に対する評価を行う。</p> <p>③-2.3 環境保全委員会を中心に校内美化ボランティアを募り、参加した学生を学内で表彰する。</p>	<p>③-2.1 ローターアクト部の地域の子どもたちへの学習支援は積極的に行われている。奇術部のボラについては、コロナ禍で機会は減ったが、地域へのイベント参加も行われた。表彰等で評価する予定である。</p> <p>③-2.2 学生消防団へ加入は行われている。表彰等で実績についての評価を行う。</p> <p>③-2.3 校内美化活動の管轄は、環境保全委員会から学生支援委員会に移行したが、従来通り活動を行っている。参加学生については学内で表彰する予定である。</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。</p>	<p>③-3.1 実績と今年度の案内を、学生・保護者に対して行った。</p> <p>③-3.2 トビタテの留学説明会を開き、トビタテ生の経験を報告した。</p> <p>③-3.3 奨学金の情報があれば、そのつど行う。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>(3)多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力で従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。</p>	<p>電気情報工学科と数理科の公募を実施し、令和5年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力で従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。</p>
<p>② 昨年度に引き続き、将来的なクロスアポイントメント制度導入に向けて、近隣の大学、研究機関等の導入事例を調査する。</p>	<p>協定書(案)について未着手</p>
<p>③ 昨年度に実施した教員人事構想ワーキングにおいて、子育て中の教員の業務軽減、授業負担軽減などにより働き易さを実現できる方策についての意見が出され、ワーキング座長(副校長)から校長へ意見を上申した。学事歴の見直しにより、今年度からは授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴で運用中である。また、各種委員会も17時までに行う。引き続き、働き方改革を推進すべく、年次有給休暇の取得促進、教員の担当授業科目数調査、ライフステージに応じた配慮希望調査、等を進めることにより、誰もが働きやすい職場環境を整備するための具体的な方策について検討する。</p>	<p>11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。今年度から授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴で運用中である。また、各種委員会も17時までに行うように、開始時間を早めるなどの工夫を取り入れた。</p>
<p>④ 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。</p>	<p>昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員を4月採用することができた。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。</p>
<p>⑤ 「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。</p>	<p>「高専・両技科大間教員交流制度」では、派遣、受入とも、希望者がいなかったが、来年度は教員高専間交流で1名、国内留学で1名、同居支援プログラムで1名の計3名が本校から他機関に派遣予定である。</p>
<p>⑥ 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)が提供する各種研修の有効活用(個人レベルでの研修への積極的参加の推奨、学校としての新任教員のSPODフォーラムへの参加義務)を実施すると同時に、SPODの講師派遣プログラムを毎年、本校で開催する。</p>	<p>6月1日にSPOD講師派遣プログラムを対面形式で実施した。</p>
<p>⑦ 高専機構の顕彰制度に合わせて、学内顕彰(最優秀教員・優秀教員・最優秀学級担任)も継続して実施する。</p>	<p>高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員を2名(一般部門1名、若手部門1名)選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員3名を10月に選出した。なお、最優秀学級担任は3月に選出予定である。</p>
<p>(4) 教育の質の向上及び改善</p> <p>①-1.1 モデルコアカリキュラムを起点とした教育の質保証の取組について、学生に周知するとともに、学生に対しては自己評価を、教員には授業改善を促す。また、各専門学科のディプロマポリシーに基づく到達目標の設定状況を把握する。</p> <p>①-1.2 アクティブラーニングや反転授業、動画教材作成など、主体的な学修を促すための試みを把握、学内で情報共有し、教育方法や教材などの共有化を検討する。</p> <p>①-1.3 ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。</p> <p>①-1.4 CBT(Computer-Based Testing)や勉強アンケート等により学生の学習到達度・学習時間を把握する。</p> <p>①-1.5 科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の担当教員間で密な連携を図り、授業改善に繋げる。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善</p> <p>①-1.1 年度当初の教務委員会で質保証の重点6項目を説明し、教員に周知するとともに、教務委員を中心として各項目の分担を決めて取り組んでいる。</p> <p>①-1.2 1月31日の教員会にて授業改善報告「リベラルアーツ演習」を実施し、意見交換を行った。</p> <p>①-1.3 「Web Class」に講義資料や課題などをアップし、学生の予習・復習や自学自習をサポートを行っている。また、新型コロナウイルス感染症対策の遠隔授業にも「WebClass」を活用している。</p> <p>①-1.4 CBTを1～4年生対象として数学、物理、化学、一部の専門科目で実施した。その結果は、来年度の教員会で報告し教員間での情報共有を図る予定である。今年度は昨年度の「数学」と「物理」のCBTの結果が教員会で報告された。また、勉強アンケートを2月に実施し、学生の勉強状況を把握した。</p> <p>①-1.5 11月に専門基礎科目と専門科目の教員同士で情報交換、課題共有のための科目間調整連絡会をTeams上で行った。</p>
<p>② 昨年度受審した大学改革支援・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の結果を精査し、今後の教育改善に役立てる。学校独自の自己点検は引き続き継続して実施する。加えて、モデルコアカリキュラムに基づく国立高等専門学校の本科における教育の質保証について情報を収集し教育の質保証に役立てる。</p>	<p>② 昨年度審査を受けた機関別認証評価の指摘を踏まえて、教務委員会規程を一部改正してFDを実施する体制を明確化し、今年度から教員会での各種FD報告を教務委員会が主となって実施することとした。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>③-1.1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL(Project-Based Learning))の実施状況を把握するとともに、現在実施している取組を充実させる。</p> <p>③-1.2 医療現場における課題解決を目指した学科横断型「アシスティテクノロジー技術者育成特別課程」においてPBLを実施する。</p> <p>③-1.3 STEAM教育の支援および高度化を目指して、関連したテーマをマシニング応用ラボや出前講座等に取り入れることを検討する。</p>	<p>③-1.1 各学科や出前授業でPBLの実施を行っていることを把握するとともに、地方公共団体等との連携の中で、地域や産業界が直面する課題を情報共有し、その課題解決に向けて検討を行った。</p> <p>③-1.2 前期5年生4名が医療現場のニーズを形にし、理学療法士等と作品についてディスカッションした結果、JAPAN-ATフォーラム2022、第6回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会において展示発表した。後期から4年生(M/E/D/Z科の学生9名)が新たなテーマに取り組んでいる。</p> <p>③-1.3 小中学生向けSTEAM教育の一環として、出前講座の中で、プログラミングを中心とした基礎的な情報教育と、段階的に課題解決に情報技術を用いるための応用教育を実施している。</p>
<p>③-2.1 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、実習やインターンシップ等の共同教育を実施し、高専フォーラム等で取組事例を周知する。</p> <p>③-2.2 地域企業等と連携した「次世代型プラント技術者育成特別課程(PE課程)」において、現役プラント技術者による最前線の講義と実習を行うとともに、企業現場での実習(インターンシップ)を行うなど、共同教育を実施する。</p>	<p>③-2.1 PE課程において、X線を用いた分析装置の実習など、新たな教育コンテンツを導入した。また、地域と連携し安全教育を実施した。</p> <p>③-2.2 計画通り講義と実習を行うことができた。また今年度から、企業現場での実習の受講学年を、5年から4年に変更し、受講生が早期に現場を体験できるように改善した。</p>
<p>③-3 今年度1年生全学科に共通科目として新設したデータ・サイエンスと、従来の1年生共通科目の情報リテラシーの内容を一部見直すことにより、教育内容の高度化に向けた取り組みを進める。 警察庁と連携し、学生向けの情報セキュリティ講座の実施を計画し、実施する。</p>	<p>③-3 後期から新設したデータ・サイエンスの授業が本科1年生全学科の共通科目として開始され、教育内容の高度化に向けた取り組みが始まった。 学生向けの情報セキュリティ講座について、新型コロナ対策会議において使用場所の利用の問題をクリアできたので、詳細を計画中である。</p>
<p>④ 令和3年度は協力機関として参画していた長岡技術科学大学の先端研究基盤共用促進事業「コアファシリティ構築支援プログラム」に、令和4年度は実施機関として参画し、技術科学大学と教育研究分野で有機的な連携を図る。</p>	<p>④ 長岡技術科学大学の先端研究基盤共用促進事業「コアファシリティ構築支援プログラム」に本校の透過型電子顕微鏡(日本電子JEM2100Plus)を半遠隔装置として登録する準備を進めている。</p>
<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 配慮を必要とする学生に対して、従来どおり、配慮願を、本人、保護者、専門員、特別支援教育推進室メンバーにより作成する。配慮願を基に、全教員・該当の非常勤講師に配慮項目を通知し、各学科主任からも改めて周知を依頼する。同時に、当該学生が安心して就学できるよう、教員研修を開催する。さらに発達障害グレーゾーンも含めたインクルーシブ教育のあり方を検討する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。サステナブル(持続可能)な学生どうしが支えあうピアサポート体制組織の構築を検討する。学級担任に対して、年度当初に学生との個別面談を実施させる。</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、非常勤1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。</p> <p>①.4 メンタルヘルス教育推進室が企画する教職員や学生対象の研修を継続して開催する。</p> <p>①.5 いじめ防止対策として学生主事講話やいじめアンケートを実施する際、「いじめの定義」を学生に説明し、教職員にいじめ防止研修を行う。</p>	<p>(5) 学生支援・生活支援等</p> <p>①.1 配慮願の作成、周知については手順を踏んで、きちんと行った。教員研修については、機構本部が実施した「第19回全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修」の録画配信コンテンツを全教員に視聴させることとした。</p> <p>①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。</p> <p>①.3 看護師の2名体制を維持し、窓口の強化は達成できている。</p> <p>①.4 教職員には上記のコンテンツの視聴により研修を行い、学生に対しては、学生相談室講話などを実施したり、学生相談室だよりを発行してメンタルヘルスの知識などを伝達したりする取組を行っている。</p> <p>①.5 いじめ対策としては、学生主事講話を実施、アンケートも実施している。いじめ防止研修は、上記のコンテンツ視聴を義務づけている。</p>
<p>② 奨学金制度について、全学生に公平な情報提供と個人の状況に応じた申請を行えるよう、学内掲示と担任を通じて周知を行うとともに、WebClassにも情報を掲載して周知を徹底する。特に担任は、奨学金制度のPR、学生個人の経済的状況把握、学生と各奨学金制度へのマッチングを図る。</p>	<p>② 学生への周知は、各教室への掲示、HP、WebClass、学級担任からのPRなど多様なツールを利用して周知徹底できている。学生の経済的困窮の問題については、学級担任のみならず学生相談室のSSWも連携し、その他、外部の支援金も検討しつつ、十分な対応ができている。</p>
<p>③.1 新5年生・専攻科2年生に対する就活情報を早期に収集し活用できるよう、キャリアプラザにて情報収集の場を開設する。キャリアプラザは、全学生が利用可能であり、低学年から就職先や企業が求める高専生像などを確認することができる場として活用する。また、企業へのアンケート、卒業生へのアンケート等を分析のうえ情報共有し、学内でのキャリア教育の情報源とする。さらに、キャリアプラザの維持・管理と情報窓口を担当する専任職員(外部委託等)の配置を検討する。</p> <p>③.2 オンライン企業説明会の資料をWebClassに掲載し全学生に公開し、本科1年生から将来の就労を意識させる取組を行う。</p>	<p>③.1 キャリアプラザについては情報収集の場としてキャリア教育の施設として活用している。企業アンケート等の分析を行い、情報は全教職員で共有し、低学年も特別活動等で活用している。</p> <p>③.2 昨年度3月にオンラインで実施した合同企業説明会のコンテンツを全学生に公開し、特別活動で視聴させるなど、将来の就労を意識させる取組を行った。</p>
<p>①.1 教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開することを継続する一方で、Researchmapへの統合も検討する。</p> <p>①.2 高度技術教育研究センターのウェブサイトや本校主催の工業技術懇談会で「教員研究テーマ紹介」や「最新の取り組み」についての情報を発信する。</p> <p>①.3 Researchmapの情報の更新を促す。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の全教員登録と最新情報への更新を促す。</p> <p>①.4 2022年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開する。</p>	<p>①.1 教員の年間業績報告書を作成しウェブサイトで公開した。</p> <p>①.2 60周年記念式典で、最近の研究トピックスを紹介した。また、来年3月に工業技術懇談会の実施を検討している。</p> <p>①.3 科研費申請と併せてResearchmapの情報の更新を促した。国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」の更新を行った。</p> <p>①.4 2022年度版新居浜高専教員シーズ集を作成し、ウェブサイトで公開した。</p>
<p>②.1 高専リサーチアドミニストレータ(KRA)や地方公共団体の関係者から情報収集を行い、共同研究・受託研究の受入れを促進する。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出席を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p>	<p>②.1 地方公共団体との連携として、愛媛県および伊予銀行との連携協定を締結し、地域との連携を強化できた。</p> <p>②.2 マッチングイベント(オンライン含む)への出席を積極的に推進し、社会へ情報発信するとともに知的財産化にも努めるように促す。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、昨年度YouTubeに作成した本校広報チャンネルの改善について検討する。</p> <p>③-1.2 画像や文字による情報発信に加え、動画コンテンツの作成及び内容の検討を行う。</p>	<p>③-1.1 情報発信力の強化のために、YouTubeによる動画配信の公式チャンネルを一般公開している。【再掲】1. 1(1)①-1.3</p> <p>③-1.2 昨年開設したWebページを改裝し、学校紹介ページとして活用している。また、新規の動画なども多数掲載している。</p>
<p>③-2 各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等については、ウェブサイトで公開するとともに、積極的に報道機関へ情報発信を引き続き行う。また、地域の地上波テレビ局でのCM放映や情報サイト、情報誌等へも引き続き情報発信を行う。報道された内容等については機構本部へその都度報告する。</p>	<p>③-2 ウェブサイトにおいて各種イベントの開催情報、地域連携の取組、教職員及び学生の特徴ある教育研究活動等について適時公開している。また、報道機関への情報発信も行い、新聞等のメディアで掲載されている。また、昨年度、広く本校の名称を認知してもらうために実施した地上波テレビでのCM放送について、中学校から得た情報から今年度は放送時期を見直して実施している。また、他にも情報サイト、情報誌等へも情報発信を行っており、報道された内容等については機構本部へその都度報告を行っている。</p>
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p>	<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p> <p>①-1 先行して参画している他高専の情報を収集し、そのあり方を検討し、支援・協力を行う。特にタイ高専の受入について積極的な検討を行った。</p>
<p>①-2 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う</p>	<p>①-2 先行して参画している他高専の情報を収集している。</p>
<p>①-3 タイ高専での教育活動を体験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。</p>	<p>①-3 タイ高専で教育活動を体験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。</p>
<p>①-4 先行して参画している他高専の情報を収集しながら、本校の強みを生かした支援のあり方を検討し、可能な限り支援・協力を行う。</p>	<p>①-4 先行して参画している他高専の情報を収集している。</p>
<p>①-5.1 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>①-5.2 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p> <p>①-5.3 海外の教育機関との提携を進め、交流を促進する</p>	<p>①-5.1 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>①-5.2 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。【再掲】1. 1(1)②-2.3</p> <p>①-5.3 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。</p>
<p>② 本校の学生・教職員の海外派遣・国際交流活動を積極的に支援するとともに、第4ブロック及び機構本部の事業に参画することにより、本校と「高専(KOSEN)」の認知度を高めていく</p>	<p>② 第4ブロック・機構本部の国際交流事業に参画し、とくに次年度の日台合同カンファレンスの開催、タイ高専生のインターンシップ受入について準備を進めている。トビタテ留学や留学プログラムを提示し、学生の積極的な参加を促している。</p>
<p>②-1.1 現在の提携校との連携を強化し、また海外教育機関との新たな提携を進め、海外留学やインターンシップなど学生交流を積極的に進行。</p> <p>②-1.2 タイ高専での教育活動を体験した本校の教員を中心に情報収集・共有を行うとともに、他高専の単位認定制度も参考にしながら、本校の実施形態に合った単位認定制度について検討する。1. 1(2)-②-1の再掲</p>	<p>③-1 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。トビタテ留学の支援、台湾聯合大学インターンシップの募集を行う予定。タイ高専で教育活動を体験した本校教員を中心に情報を収集し、次年度のインターンシップ受入について計画を策定した。単位認定制度については検討には及んでいない。【1. 1(2)-②-1の再掲】</p>
<p>③-2.1 今年度本科1年生に開設した「リベラルアーツ演習」を通してグローバルマインドの育成を推進する。</p> <p>③-2.2 今年度からカリキュラム化した「英会話演習」と「海外語学研修」を活発に運用し、学生の英語コミュニケーション力向上に活用する。</p> <p>③-2.3 留学経験者や外国人留学生・教師と関わる機会を授業内・課外で積極的に設ける。 1. 1(2)-②-2の再掲</p>	<p>③-2.1 リベラルアーツ演習を開講し、外国のSDGs達成状況などを調べ、海外への関心を惹起できた。</p> <p>③-2.2 「英会話演習」を周知し希望者が参加した。「海外語学研修」については、これまで海外研修を企画できなかったが、3月に研修を企画し、達成したい。</p> <p>③-2.3 留学経験者の情報はHPで周知している。長期留学生との交流は研修旅行や文化祭等で予定している。今年度から雇用した外国人常勤教員は授業内外で活躍。台湾とのオンライン交流を実施。1. 1(2)-②-2の再掲</p>
<p>③-3.1 「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの採用実績等について、ウェブサイト等で広報を行う。</p> <p>③-3.2 留学する学生に対して、実りある留学となるよう事前指導を行うとともに、留学終了後には学内で報告会を開催する。</p> <p>③-3.3 その他、各種奨学金の情報提供を行う。 1. 1(2)-③-3の再掲</p>	<p>③-3.1 実績と今年度の案内を、学生・保護者に対して行った。</p> <p>③-3.2 トビタテの留学説明会を開き、トビタテ生の経験を報告した。</p> <p>③-3.3 奨学金の情報があれば、そのつど行った。 1. 1(2)-③-3の再掲</p>
<p>④-2.1 新居浜市国際交流協会と協力して地域と一体となった長期留学生支援を行う。</p> <p>④-2.2 英文併記の学校案内やウェブサイトの英語版コンテンツを活用した広報活動を行う。</p> <p>④-2.3 在学中の留学生の活動をウェブサイト等で発信し、本校での学業及び生活の様子を随時紹介する。</p> <p>④-2.4 海外提携校との関係を強化し、さらに新たな提携先を開拓して、短期留学生の受入を促進し、あわせて施設、受入体制を整備を行う。 1. 1(2)-②-2の再掲</p>	<p>④-2.1 新居浜市国際交流協会から案内されたイベントに長期留学生が参加し、地域と一体となった交流をしている。</p> <p>④-2.2 英文併記の学校案内を作成するなど、広報活動を行った。【再掲】1. 1(1)②-2.2</p> <p>④-2.3 今後の予定として研修旅行や交流行事(7月に企画したが感染拡大により延期)を企画しているので、発信紹介する予定である。</p> <p>④-2.4 インドネシアポリテクとの協定へ向けて準備中。台湾の国立聯合大学とオンライン交流を行うなど、関係の強化に務めた。 1. 1(2)-②-2の再掲</p>
<p>④-2 先行する他高専の情報を収集しながら、将来的な受入に向けて制度及び施設の整備を進める</p>	<p>タイ高専3年次編入については、第4ブロックの拠点校と連携し、進めている。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
⑤-1 海外渡航時における連絡体制及び危機管理の体制整備を行う。 ⑤-2 海外渡航時には海外旅行保険への加入を義務付ける。 ⑤-3 外国人留学生に対してグローバル教育センター、留学生指導員及び学生チューターによる学業・生活支援を引き続き継続する。 ⑤-4 外国人留学生が学内外で充実した生活を送ることができるよう地域の支援団体の協力を仰ぐ	⑤-1 本校におけるマニュアルの策定を行った。 ⑤-2 加入を義務づけ、届出で事前に確認している。 ⑤-3 指導教員・学生チューターによる支援を行って、実施状況を管理している。 ⑤-4 新居浜市国際交流協会と連携し、地域イベントへの参加、および日本語学習の支援に協力を仰いだ。
2. 業務運営の効率化に関する事項 2.1 一般管理費等の効率化 ① 一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努める。各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。 ② 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。 ③ 本校作成の「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。	2.1 一般管理費等の効率化 ① 予算の計画的執行及び適正な物品管理に努めている。各種事業・行事等の実施については、関係部署等と連携して効率的に運営できている。本部からの新型コロナウイルス感染症対策費を活用し、一般管理費の縮減に努めている。 ② 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。 ③ 「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、改訂作業を行っている。
2.2 給与水準の適正化 -	-
2.3 契約の適正化 ① 少額随意契約の基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。 【再掲】2.1②	2.3 契約の適正化 ① 一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の確保、より安価で適正な価格での契約に努めている。 【再掲】2.1.②
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ・校長裁量経費として、教育研究推進費、共同研究推進費及び外部資金獲得推進費を設け、社会貢献・地域連携促進につながるよう予算措置を行う。 ・運営費交付金の会計処理について、業務達成基準による収益化が原則とされたことに注意し、収益化単位の業務ごとに予算管理する。	3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 ① 教育研究推進費、共同研究推進費は5月に募集を行い、7月に該当教員へ予算配分を行った。外部資金獲得推進費については、外部資金の申請状況に基づき、4月及び11月に当該教員へ予算配分を行った。 ② 業務達成基準の収益化については、業務終了時に収益化できるよう、収益化の単位ごとに予算管理を行っている。
①.1 科学研究費の申請・採択件数の増加を目的とし、関連情報を学内へ周知するとともに講習会等を実施する。 ①.2 研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行う。 ①.3 卒業生が就職した企業、同窓会等からの寄附金の獲得につながる取組を検討する。 ①.4 イノベーションジャパン等の各種マッチングイベントについては、出展に係る経費の一部を支援するなど積極的に参加を推奨することで共同研究等に繋げる。	①.1 科研費採択教員による科研費セミナーを実施した。本年度の実施件数(代表)は17件となり過去最高の件数である。また、申請件数も昨年度の件数を上回った。 ①.2 校長裁量経費「共同研究推進費」を実施し5件を採択した。また、採択教員の科研費への申請を強化できた。 ①.3 新居浜高専基金を設立し、寄附金の獲得拡大につながる枠組みを整備できた。 ①.4 第1回高専研究国際シンポジウム(KRIS2023)に参加する教員への参加経費支援を検討している。
3.3 予算 -	-
3.4 収支計画 -	-
3.5 資金計画 -	-
4. 短期借入金の限度額 -	-
5. 不要財産の処分に関する計画 -	-
6. 重要な財産の譲渡に関する計画 -	-
7. 剰余金の使途 -	-

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8. 1 施設及び設備に関する計画</p> <p>国立高専機構個別施設計画(改修予定事業等)年次計画に基づき、R5年度概算要求として【情報教育センター改修】【蛍雪寮改修】【電子制御工学科棟改修】の3事業の要求書を提出。示達に備え、移転・仮運用計画、新規物品購入計画の立案を行う。また、R6年度要求分についてはキックオフ済みとなっており、R5年度要求事業の状況に合わせて、学内調整を加速する予定である。</p>	<p>8.1 12月末にR4年度補正事業として【情報教育センター改修】事業の内示を受けた。これを受けて、関連部門と協働しながら事前準備を行っているところである。</p> <p>設計業務：公募中 建新・移転費：予算要求中 工事期間中における仮運用計画：策定済み</p>
<p>①-2 非構造部材の耐震点検・耐震対策チェックリストに基づくパトロールを月一回のペースで実施し、緊急度に応じて対策を講じる。</p>	<p>①-2 計画通りパトロールを実施している。今年度は、現在までのところ対策が必要な事象は発生していない。</p>
<p>②新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。また、学外から講師を招いて、放射線業務従事者講習会を実施する。</p>	<p>② 新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付した。愛媛大学から講師を招き、放射線業務従事者講習会(8/3)を開催した。</p>
<p>③.1 女性教職員、女子学生のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</p> <p>③.2 女子学生の受入を推進するため、現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、引き続き女子トイレの整備を推進する。</p>	<p>③.1 ニーズ調査は年度末実施予定。ただし、緊急案件が複数発生していることから、これらについては随時対応中。</p> <p>③.2 年度末に向けて、予算状況を見ながらトイレ改善計画に基づき整備を推進する予定である。</p>
<p>8. 2 人事に関する計画</p> <p>8. 2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図る。また、外部指導員を活用した課外活動支援を検討し、実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討する。</p> <p>①.2 学生相談は、従来どおりの外部委託によるスクールカウンセラー、スクールカウンセラー等の人員を確保し、平日毎日の相談に対応できる体制を維持・継続する。【再掲】1. 1(5)①.2</p> <p>①.3 保健室の看護師も常勤1名、外部委託1名の常時2名体制を継続し、学生相談の窓口となる連携強化に努める。【再掲】1. 1(5)①.3</p> <p>①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続する。また、2名体制の宿直業務のうち1名を、土・日・祝日は外部委託しているが、平日も委託することを検討する。</p>	<p>①.1 休日のクラブ安全管理指導員は、外部委託による体制を継続し、学生活動の現状についての情報連携の強化を図った。外部指導員を活用した課外活動支援が可能かどうかを検討中である。実施のための人件費の確保や具体的な業務内容についても検討中である。</p> <p>①.2 カウンセラーは精神科医・臨床心理士・SSWなどを平日には配置している。スクールカウンセラーと連携し、学生保健委員会を中心にピアサポーター育成に取り組んでいる。学級担任の個別面談は4月に実施し、事件・事故防止のため学生の出席状況把握を全学的に取り組んでいる。【再掲】1. 1(5)①.2</p> <p>①.3 看護師の2名体制を維持し、窓口の強化は達成できている。【再掲】1. 1(5)①.3</p> <p>①.4 教員の負担軽減を目的とし、学生寮日直業務及び学寮指導業務は、外部委託を継続している。また、2名体制の宿直業務のうち1名を、土・日・祝日は外部委託を継続し、さらに本年度後期からは平日3日間も外部委託している。</p>
<p>③ 第4期中期目標・計画期間中に達成すべき人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保する。</p>	<p>第4期中期目標・計画期間中に達成すべき新たな人員枠「73」の枠の中で、教授枠を利用しての助教枠の運用を行うことにより、若手教員の採用枠を確保しつつ、今後の採用計画の立案および学内昇格人事を行っている。</p>
<p>④-1 専門科目の教員公募では、「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」を応募資格とする。ただし、一般教養科の教員公募では、原則は「博士の学位を有する者(又は採用までに取得見込みの者)」ではあるが、分野によっては、「修士の学位」であっても「博士の学位を有する者」と同等程度の業績がある場合もあること、また、多様な人材からの応募が期待できるという側面も考慮し、人事委員会の議を経て、「修士以上の学位を有する者」を応募資格とするケースもありうる。</p> <p>公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載する。【再掲】1. 1(3)①</p>	<p>電気情報工学科と数理科の公募を実施し、令和5年4月1日付け採用予定である。また、多様な背景を持つ教員組織を目指すため、公募要項のその他欄に「高等学校、民間企業、研究機関等において過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」と記載している。【再掲】</p>
<p>④-2 近隣大学の実施状況を参考に、同制度の実施可能性の高い組織(地元企業、近隣の大学・研究機関等)を想定した、協定書(案)について検討する。【再掲】1. 1(3)②</p>	<p>協定書(案)について未着手【再掲】</p>
<p>④-3 これまで育児・介護などのライフステージに応じた勤務形態の制度化については、各学科等の現状の把握や意見聴取などを行っており、今後、更に検討を進めるための体制の整備に着手する。【再掲】1. 1(3)③</p>	<p>11月開催予定の人事構想WGおよび学校改革推進室において、教員の負担軽減策を検討することとし、推進体制の整備に着手した。今年度から授業週を半期あたり一週削減し、土日に実施していたイベントを平日に行う学事歴で運用中である。また、各種委員会も17時までに行われるように、開始時間を早めるなどの工夫を取り入れた。【再掲】</p>
<p>④-4 教員公募の際、人事委員会において、外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえた上で検討する。【再掲】1. 1(3)④</p>	<p>昨年度の公募により一般教養科(英語)に外国人教員を4月採用することができた。今後も外国人教員の採用の可能性について、該当学科の意見を踏まえて人事委員会で検討する。【再掲】</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会を開催する。</p> <p>④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。</p> <p>④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。</p> <p>④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する。</p> <p>④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加し、情報の共有・普及を行う。</p> <p>④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加し、情報の共有・普及を行う。【再掲】1. 1(1)②-1</p>	<p>④-5.1 教職員対象に外部講師による男女共同参画・ダイバーシティ等に関する研修会をオンラインで開催する。</p> <p>④-5.2 学外機関が主催する男女共同参画・ダイバーシティに関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する予定である。現時点では開催要項は入手していない。</p> <p>④-5.3 男女共同参画・ダイバーシティに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進している。</p> <p>④-5.4 男女共同参画・ダイバーシティに関する情報をウェブサイトにおいて発信する予定である。</p> <p>④-5.5 第7回第4ブロック男女共同参画推進担当者協議会に参加予定だが、まだ開催要項が未到着である。</p> <p>④-5.6 第4ブロック(中国・四国地区)高専女子フォーラムに参加する予定である。</p>
<p>⑤ 引き続き、近隣国立大学との積極的な人事交流を推進する。また、近隣高専と事務系職員の採用に係る合同面接を実施し、将来的な高専間の人事交流についても両高専間で検討する。</p>	<p>今年度は人事交流により愛媛大学から6名が派遣されている。来年度も5名程度の人事交流を予定している。</p> <p>また、弓削商船高等専門学校と合同で職員の新規採用面接を実施した。</p>
<p>(2) 人員に関する指標</p> <p>常勤職員の職務能力を向上させるための機会(各種研修への参加推奨、自律的な活動への評価等)、業務の効率化を図るための方策(業務改善アイデア)、事務のIT化(グループウェアの活用等)に向けた取組等を通じて、人材の育成及び人材の適切な配置に努める。</p>	<p>職員の各種研修等については、積極的に参加させており、人材の育成に努めている。</p> <p>また、今年度からGaroonを導入し、事務だけでなく学内全体のIT化を図った。</p>
<p>8. 3 情報セキュリティについて</p> <p>昨年度受審した情報セキュリティ監査における指摘事項に対して必要な対策を講じる。</p> <p>PDCAの定着を図るため、機構本部のサイバーセキュリティ関係規程のひな形に合わせて新居浜高専の情報セキュリティ関係規程の改定を実施する。</p> <p>機構本部で計画するインシデント対策訓練との連携し、新居浜高専の対応訓練の実施、新居浜高専全教職員にeラーニングによるセキュリティ教育の実施により、教職員の意識向上を図る。</p> <p>新居浜高専において、トップセミナー、情報セキュリティ教育を受講する。</p> <p>全教職員にたいして、すぐやる3箇条の実施を徹底するよう啓発する。</p> <p>以上を令和4年度における情報セキュリティ対策を総合的に推進する</p>	<p>8. 3 情報セキュリティについて</p> <p>情報セキュリティ監査における指摘事項に対して、順次対策を講じている。</p> <p>サイバーセキュリティ関係規程の改定手続きを進めている。</p> <p>11月に実施される第1回インシデント対策訓練について受信の確認を行った。全体訓練の準備を進めている。</p> <p>職場巡視の際に、すぐやる3箇条の掲示を確認するとともに、運営会議、教員会などにおいて、実施の徹底を啓発している。</p>
<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行う。また、他高専等との間では必要に応じてWEB会議システムを活用する。</p>	<p>8. 4 内部統制の充実・強化</p> <p>①-1 予算配分等の重要課題については、校長のリーダーシップの下、運営会議等において迅速かつ効果的に意思決定を行うよう努めている。新型コロナウイルス感染症への対応のため、必要に応じて対策本部会議を開催し、状況を共有するとともに、それに伴った取組・情報発信を行っている。(1回/1月程度)また、随時学内の感染状況をTeamsを用いて共有しており、迅速な対応を取ることができるよう努めている。なお、今年度においても各種会議等については、学内外に問わずWeb会議システムを活用している。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議等で得た情報については、校長が運営会議や教員会等で周知を行い、全学的な情報共有の徹底に努めている。</p>
<p>①-3 ブロック校長会議等において、学校運営や教育活動の在り方等について意見交換を行う。</p>	<p>①-3 第1回四国地区高専校長・事務部長会議(5月9日)、第1回第4ブロック校長会議(6月1日)、第2回同会議(10月14日)に参加し、地区及びブロック内での課題等について情報共有と連携を図っている。</p>
<p>②-1 校長は理事長との面談において得た機構全体の共通課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底を図る。</p> <p>②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)とで各担当部署における今年度の年度計画や課題等について確認を行うとともに情報共有を行う。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談を実施する。</p>	<p>②-1 校長が理事長との面談において得た機構全体の共通課題や本校の課題等について、運営会議や教員会等で周知するなど全学的な情報共有の徹底に努めている。</p> <p>②-2 校長と主事をはじめ各部門の長(専攻科長、センター長、室長)との間で、その都度機会を設け、課題等について情報共有に努めている。</p> <p>②-3 校長と全教員との面談を6月に実施した。</p>
<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検を実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修等に参加するほか、全学的にコンプライアンス意識を浸透させる多ために研修等を実施する。</p>	<p>②-2.1 教職員全員を対象に機構本部作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づく自己点検については、現在実施している。</p> <p>②-2.2 高専機構主催の階層別研修に参加するほか、7月にコンプライアンス研修を実施した。また、11月24日に教員対象のハラスメント研修会の開催を実施した。</p>
<p>②-3 リスク事案については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処する。</p>	<p>②-3 リスク事案(新型コロナウイルス感染症、情報セキュリティ関連を含む)については、「災害及び事故事件発生時の情報連絡体制」に基づき、速やかに機構本部担当へ連絡するとともに、本部と十分な連携のもと適切に対処することに努めている。</p>

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>③.1 高専相互監査において、効率的かつ効果的な監査を実施するため、監査事項等について、会計担当職員の理解を深める。また、監査事項を中心に自己点検と職員間の相互チェックを行う。</p> <p>③.2 高専機構の不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備を行う。</p> <p>③.3 学内における内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>③.1 被監査校で監査を受けるにあたり、担当者間で打ち合わせを行い、監査事項等について理解を深めた上で監査に臨む。</p> <p>③.2 学内規程が高専機構の不正防止計画に則したものとなっているか随時点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしている。会計機関の補助者及び金庫監守責任者については、適切に変更手続きを行った。</p> <p>③.3 学内内部監査については年度内での実施に向けて準備を進め、手続きを行っている。</p>
<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取組状況について、定期的に報告を行う。また、学内で策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。</p>	<p>④ 高専機構の不正防止計画等への取り組み状況については、例年状況報告を行っている。「適正な会計処理に向けた対応策」については、高専機構の規則改正時など必要の都度、見直しを行うこととしている。高専機構の不正防止計画とともに7月及び12月に学内説明会を開催し周知した。学内研修未受講者対象に年度内に再度研修を実施した。</p>
<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定する。</p>	<p>⑤ 高専機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、具体的な指標、事項を設定した本校の年度計画を策定した。</p>